

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第1区分

【発行日】平成19年10月11日(2007.10.11)

【公開番号】特開2001-190953(P2001-190953A)

【公開日】平成13年7月17日(2001.7.17)

【出願番号】特願2000-330201(P2000-330201)

【国際特許分類】

B 01 J	21/06	(2006.01)
B 01 J	35/02	(2006.01)
C 01 G	23/053	(2006.01)
C 09 D	1/00	(2006.01)
C 09 D	5/00	(2006.01)
B 01 D	53/86	(2006.01)
B 01 D	53/94	(2006.01)

【F I】

B 01 J	21/06	A
B 01 J	35/02	J
C 01 G	23/053	
C 09 D	1/00	
C 09 D	5/00	Z
B 01 D	53/36	J
B 01 D	53/36	G
B 01 D	53/36	1 0 2 C

【手続補正書】

【提出日】平成19年8月23日(2007.8.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

電子スピン共鳴スペクトルにおいてg値1.930～2.030の間に3つのピークを有し、かつそれらピークの内の極大となるピークがg値1.990～2.020の間に存在することを特徴とする酸化チタン。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

すなわち本発明は、電子スピン共鳴スペクトルにおいてg値1.930～2.030の間に3つのピークを有し、かつそれらピークの内の極大となるピークがg値1.990～2.020の間に存在することを特徴とする酸化チタンを提供するものである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】**【0007】****【発明の実施の形態】**

以下、本発明を詳細に説明する。本発明の酸化チタンは、電子スピン共鳴（以下、E S Rという。）スペクトルにおいて g 値 $1.930 \sim 2.030$ の間に 3つのピークを有し、かつそれらピークの内の極大となるピークが g 値 $1.990 \sim 2.020$ の間に存在するものである。